

# どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

2月号(NO65)通巻 215号

2024年2月10日(土)発行(毎月10日)

【農暦】キュウイの剪定の完成形が判らないが終わりにした！

○雪の日(6日)の翌日は澄みきった青空が広がる。朝陽はことのほか眩しい。雪が乱反射して溶け始めている。なかなか顔を会わせないご近所さんと雪かきをした。一年振りのことである。一時ほどで終わった。だが、能登の雪は違うのだと思う。重く怖い雪なのだろうと想像する。能登に何も出来てない。イオンで少しばかりの能登支援の義援金のカンパをした。

○能登地震から一ヶ月が経った。今猶支援が進んでいない深刻な事態が続いていると云う。被災した自治体職員の尽力には頭が下がる。百万単位のそれも貸付の支援金の論議と数千万・億の政治資金の議論に何か違和なものを感じる。政治の腐敗は日本の凋落を意味する。良いことは一つもない。人の善意だけが救いになる。

○雪で首都圏は大混乱している。今電気が止まったらと考えたらと思うと、能登の厳しさが容易に想像できる。ガザの殺戮は止まらない。電気が止まるだけでも大変なのである。ガザは天災ではない。無力を恨みたくなる。能登とガザのニュースを見て、**他人事にはならない能登とガザ**。イスラエル軍「やりすぎ」とバイデン氏強く批判と新聞にあったが、許し難いものがある。戦争のプロパガンダと国会答弁は人間不信になる。そして、社会を腐敗させる。ガザの殺戮を止められない人類の未来はいっそう惨めなものになだろう。

○伸び放題になっていたキュウイの剪定を続けているが、ことのほか大変で、なかなか終わらない。切り取った枝の処分も大変である。頭を上にした作業なので、首が痛い。老いた身体は回復力が乏しのか首の痛みは取れない。剪定の完成形が判らないが終わりにした。他の樹木もあり、気になる場所を剪定して終わりにしたいと思う。来月はじゃが芋に植込み時季になる。畑の整備をしたい。

凍土で餌が無いのか、絹さや、ほうれん草、菜花が食べられている。近くの茂みで雉が鳴いていた。絹さやは復活は難しそうである。これからは雉の餌も増えると思うので、園芸店で絹さや鉢ものを買って植込みしたいと思う。(丁)

【楽農】<畑>キューイの剪定。ネギ、ほうれん草、花野菜を食卓に。

【楽市】イベント等；共生つばさの会(11・1日)川柳の会(11・1日)詩吟例会(18・25・8日)山野草の会(19日)誕生会(21日)バードゴルフ大会・新年会(26日)吟連協新年会(27日)飲み会(28・30日)部落の芝焼(4日)\*年頭で飲み会が多かった。また歳でか旧友との会が増えた。



<ボケの花>23日撮影



<雉に食べられた>9日撮影

**【つぶやき=Tweet】小澤征爾の偉大さを天声人語で始めて知った気がした！**

○小沢征爾さんが 88 歳で死去された。旧満州国の時代の奉天、いまの瀋陽の生まれで、母親が病気していて、中国のおばさんからミルクを頂いて育ったという。征爾の名は、関東軍の板垣征四郎と石原莞爾からとったという。この名前の由来には驚いた。板垣征四郎と石原莞爾と云えば中国を蹂躪し大戦へ拡大させた張本人と云うべきひとである。岸信介も東条内閣の閣僚として深く関ってる。友人に莞爾がいた。征、勝などの名が多かった。その時代の世相が名になっている事は知っていたが、小沢征爾の名がと驚いた。



<雪の菜園>14日撮影

○10 日の天声人語に“「中国で生まれ日本で育った僕」。隣国（中国）に特別な感情を持っていたと、戦後、再訪した際は、日中戦争の悲惨な歴史を振り返り、ときに目を真っ赤にして指揮台に立っていたそうだ。”とある。“日本人にバッハがわかるのかー。彼が世界に飛び出したころ、欧米では差別や偏見が珍しくなかった”“魔法のタクト一本で、国籍を溶かし、国境をひょいと飛び越えてしまう「世界のオザワ」だった、でも、「欧州で生まれたクラシックを、東洋人はどのくらい理解できるのか。僕の一生はその実験だ」静かにそう語っていた”とあった。引用が長くなったが、小澤征爾の偉大さを天声人語で始めて知った気がした。

○今 NHK の「光る君へ」で、漢詩の歌くらべをやっていたが、漢詩は中国のものである。詩吟をやっているので、よく漢詩を吟じる。アジアの民としてアジアの文化は大事にしたいと思っている。欧州も、アラビアも文化も持っている。それぞれ尊重されるべきと思う。日本から仏教や漢字文化をとってしまったら日本ではなくなる。脱亜入欧など有り得ない。互いの文化を尊重し合ってこそ、人類の文化なのである。ガザの殺戮はその欠如が根底にあるのだと思う。イスラエルの国防省は、「私たちは、人間の姿をした動物と戦っている」という。



<剪定後のキュウイ>9日撮影

自分自身がケダモノになっていることを忘れてる。

○10 日の素粒子に“16 日から確定申告。市民は領収書を一枚一枚、丁寧に。”とあった。いつもこの時期、医療費、保険など散逸した領収書が気になる。だが一方で、何千万円のお金が領収書なしで使われる。そのお金は我々が納めた税金である。納税すれば安心した生活が保障されるのであれば納税のし甲斐もある。何からなりまで税がかかるが、公共サービスも有料ばかり、“子ども・子育て支援”と良い政策と思っていたら 75 歳以上 1 割、74 歳以下 9 割の割合で負担させるという。納税よりも。能登義援金のカンパの方が大事と思ってしまう。(了)

○断捨離考：危険水域に、少しでも頑張るぞ！

**【後記】他人事ではない。大地に足を【HP 転載】**

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸 4 2 0 1 - 1 0

携帯電話：090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；[torao-k@nifty.com](mailto:torao-k@nifty.com)